

優秀賞

愛のエネルギー

青森県青森市立西中学校

3年 白崎 礼菜

夜空の下に輝くねぶた、それに続いて響く囃子の音色とハネトの声。そして活気づく人と街。青森の夏の風物詩、ねぶた祭。私は、このねぶた祭に熱量をもって取り組んでいる。ねぶた祭とは、青森市を代表する夏のお祭りで、ねぶたと囃子方、そしてハネトが街を歩く祭りだ。今にも爆発しそうな熱気のなか、生で観るねぶたは他にないくらい魅力的でカッコいい。そんなねぶた祭に、なぜ私が熱量をもって取り組むようになったかを書いていきたいと思う。

私は、ねぶたの前に並んで楽器を演奏する「囃子方」としてねぶた祭に参加している。初めは、ねぶたが好きという理由で始めてみたまでだったが、今は少しだけ違う。皆さんは、「消滅可能性自治体」という言葉を聞いたことがあるだろうか。あまり明るい言葉ではないが、私はこの言葉にエネルギーをもって向き合いたいと考えている。消滅可能性自治体とは、将来その都市に住む女性の数が減り、生まれる子どもが減ることで人口が減り、それに伴って成り立たなくなってしまう都市のことだ。私の愛する地元、青森市はそれに選ばれてしまった。そのことを初めて知った時、将来自分の愛する青森市が、今のようには成り立たなくなってしまうことを考えると悲しくてたまらなかった。しかし、悲しんでばかりいても仕方がない。そこで私は、青森市のために自分にできることは何かを考えてみることにした。ネットで調べてみると、青森県内では子育てがしやすい環境づくりを意識することで、消滅可能性自治体から脱却することに成功した都市があった。たとえば、外ヶ浜町では、小中学校の給食費を無料にしたり、出産祝い金を贈ったりすることで、住みやすいまちづくりを進めているそうだ。しかし、子どもの私に今それができるかを考えると、そうではない。そこで、青森県内だけでなく全国の対策を調べてみた。すると、住民の環境や観光への意識が、街を変えることにつながっているという都市がいくつかあった。たとえば、長野県阿智村では観光資源を再評価することで、観光客や移住者が増えたそうだ。ほかにも、徳島県上勝町ではごみの削減とリサイクルを徹底することで、街の環境意識が高まり、観光客も増え地域が活性化したそうである。私はこのことを知って、「これならできそうだ」と思った。小さなことの積み重ねが、地元の未来を左右する、そう信じて、観光と環境、どちらにも私が直接関係しそうな、地元の大イベントであるねぶた祭で、少しでも行動してみることにした。私は、囃子方をするまでの時間や祭りのあと、囃

子方をしない日は観客として、街に出歩いて自分にできることを探した。ねぶた祭には県内外、国内外から大勢の人が集まる。困っている人に話しかけて、道案内をしたり、写真を撮ってあげたりした。海外から来てくれた方に話しかけられ、言語の違いに少し戸惑ってしまうこともあったが、ねぶたを観に来てくれた人たちに、「また青森市に来たい」「楽しかった」と思ってもらえるような時間を過ごしてほしいという思いでたくさん交流した。また、人が増えるとごみも増えてしまう。道にごみが落ちていることに気がついたら、なるべく拾って近くのごみ箱に捨てるように心がけた。心なしか自分の歩いてきた道が輝いて見える。それがすごくうれしかった。

私は、ねぶた祭に出て、たくさんの地元愛が積み重なって、あんなすてきな祭りが行えるのだと改めて思い、青森を愛している人がたくさんいることを実感した。こんなに愛にあふれた都市でも、いつか消滅してしまうらしい。しかし、未来はいくらでも変えられるはずだ。自分がしたことは、少しの力にしかないかもしれないけれど、それでも未来が変わる感覚がした。だから、今はまだ消滅可能性自治体の一つかもしれないけれど、近い将来にそこから脱却し、笑顔あふれる青森市にしていきたいと強く思う。さらには、青森県、東北と規模を広げていき、消滅可能性自治体という言葉がなくなるくらい日本を元気にしたいと考えている。時間は有限だ。私は今日も、地元への愛をエネルギーに、自分にできることを探し続ける。